



こどもの文学？



おとなの文学？

～ロシアの児童文学作家グリゴリー・オステルを迎えて

子供が読むから児童文学っていうのか？

子供のための文学だから児童文学っていうのか？

同じ作品でも子供の楽しみ方と大人の楽しみ方があるのか？

そもそも、大人の文学と子供の文学の違いってどこにあるのか？

日本と世界（ロシア、アメリカ etc.）で子供の文学の違いはあるのか？……

スペシャルゲストのグリゴリー・オステルは、ロシアでは幼稚園の子供から知的な大人まで、幅広い世代に読まれている、もっとも人気のある児童文学作家の一人です。いたずらな子供の目を借りて大人をとことんからかうオステルの作風はかなりブラック。詩や学術書という「高尚な」形式とナンセンスな内容の対比によって生まれるユーモラスな味わいが魅力の『悪い子のすすめ』や「教科書シリーズ」など、形式との戯れを利用するモダニズムの手法は、児童書の枠を大きくはみだしています。

児童文学の作家であり評論家でもあるひこ・田中さん、アメリカ文学の翻訳家で児童書の翻訳も数多く手がける青山南さん、ロシアだけでなく日本と世界の文学なんでも知っている沼野充義さん、そしてオステルの作品の翻訳者の毛利公美さんを迎えて、オステルの作品を日本や世界の児童文学のなかでどう位置付けるかを通して、「児童文学」というカテゴリー設定自体に疑問を投げかけ、「大人の文学」「子供の文学」に境界は存在するのか？を考えます。



主催 国際交流基金

共催 東京大学文学部現代文芸論研究室（科研費研究プロジェクト基盤研究（A）越境と変容—グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて） 協力 東宣出版



日時／2013年12月21日（土）15:00～17:00

会場／国際交流基金2階 JFIC ホール [さくら]

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1

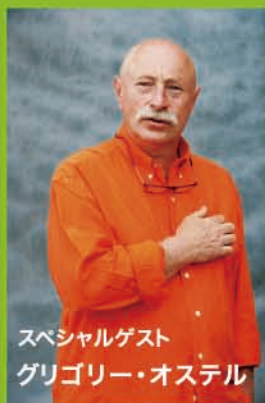
当日先着順・入場無料・予約不要 ※受付開始時間 14:30



問い合わせ先

国際交流基金（03-5369-6071 担当 高口）

東京大学文学部現代文芸論研究室（03-5841-7955）



スペシャルゲスト
グリゴリー・オステル

パネリスト

ひこ・田中（児童文学作家、批評家）
青山 南（翻訳家、エッセイスト）

司会

沼野 充義（ロシア東欧文学研究者）

進行

毛利 公美（オステル翻訳者）

